

## 論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2689 号	氏名	渡邊 佳孝
論文審査担当者	主査 後閑 武彦 副査 大塚 成人 副査 関沢 明彦		
<b>【論文審査の要旨】</b> <p>近年、発達の指標として、MRI による脳容積測定が注目されている。本論文では、出産予定日（以下、予定日）周辺における極低出生体重児と正期産正常出生体重児の脳容量の差異について検討された。対象は極低出生体重児 20 名（VLBW 群）と正期産正常出生体重児 9 名（TNBW 群）で、予定日周辺に撮像した MRI から、灰白質容量（GMV）、白質容量（WMV）、脳脊髄液容量（CSFV）、これらの総計の総脳容量（TBV）を求めた。その結果、両群比較では TNBW 群が VLBW 群に比べ予定日周辺の GMV および体重、身長が有意に高値であった。体格の差異を考慮し共分散分析を行ったところ、GMV は影響されていなかったが、WMV および TBV に占める WMV の割合は VLBW 群が TNBW 群に比べて有意に高値であった。さらに、TBV に占める GMV の割合は VLBW 群で有意に低値であった。これらの結果から、予定日周辺の極低出生体重児の脳容量およびそれらの分画は、正期産正常出生体重児とは明らかに異なることが示された。</p> <p>本研究は我が国で初めて極低出生体重児を対象に MRI による脳容量を検討し、正期産児との相違を明確にした。以上より、学術上価値があり、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名：極低出生体重児の出産予定日における MRI を用いた大脳容量の検討</p> <p>掲載雑誌名：昭和学士会雑誌 第 75 巻 2 号 2015 年 掲載予定</p>			

（主査が記載、500 字以内）